

第4回 中目黒駅周辺地区 交通バリアフリー推進懇談会 議事録

日時：平成15年3月11日(火) 19:00~21:00

場所：中目黒住区センター 2階 第5・6会議室

<凡例> 参加者からの意見 ・ 目黒区からの意見

1. 開会挨拶(省略)
2. 交通バリアフリー推進基本構想案 策定プロセスの説明
3. 中目黒駅周辺地区 基本構想案(たたき台)について説明・意見交換
 - (1) 駅周辺での放置自転車対策(特定事業-1.)について
放置自転車対策のメニュー、他の成功事例はあるのか?
 - ・ 他の事例などをまとめている。
放置が多い場所に一人いると自転車が減る。効果があるのでいいのではないか。
 - ・ 区・住民の方の協力で進める必要がある。
 - ・ 放置自転車ゼロを目指していく(区長)。
GTの駐輪場の全部は使われていない。暗渠の上はマナーが悪く、すぐに人が通れないくらいになる。
GTはどのくらいの利用度なのか?
自転車に必ず名前を書くようにしては?
ルールではなく条例をつくれぬか?交通バリアフリーの地区に選ばれたので特別に指定できないか?条例はお金もかからずすぐにできるのでは。
自転車の事故は起きていないのか?
 - ・ 関係課では把握しているはず。条例があり禁止区域、撤去料のきまりがある。次回、詳細をお示しする。
歩道を広くしてもすぐに放置自転車で埋まるのでは?
 - ・ 区としては地区ごとに協議会を立ち上げているところである(都立大:設立予定、自由が丘:設立しているが放置は減っていない)。
“バリアフリー”の課題の重要性はどのような順か?
 - ・ 自転車対策=バリアフリーでない。法では段差・勾配(駅と施設を結ぶ間)など移動の円滑化を目指すことになっている。
 - ・ 段差解消・手すり設置で安全に歩ける道を目指していく。ハード(ものをつくる)、ソフト(心の面)で取組んでいく。この会で話していき、広がることでバリアを除くことになる。
 - ・ 自転車そのものの利用、乗り入れのエリア規制をし、条例化してはどうか。
 - (2) 全体を通して
中目黒のEVは健常者ばかり使っているのでは。
 - ・ 誰が使ってもいいが、障害者等にはゆずってほしい。有効に使っていてほしい。
段差は昔からあり、家の中にもある。命にはかかわらない。自転車は命にかかわるくらい危険なので、段差より自転車が重要では?
高齢になると足が上がりなくなってくる。段差を是正して欲しい。

駅から GT への階段は雨の日滑りやすいので直して欲しい。

- ・ 区から直すことについて意見が出たことを伝えていく。
視覚障害者として 2 cm の段差は確保してほしい。整備してから直すのではなく、最初から確保した方がいい。
3.5mの幅員のうち、1.0mフラット残り 2cm 段差としてはどうか？（車いす 1 台分）
主要経路を追加、もしくは区域の見直しを（目黒区北側について）。
GT タワー周辺：誘導ブロックを JIS 規格に変えてほしい。
商店会によって参加人数にバラツキがあるのでは。
- ・ 町会、住区などの“代表”という形での参加を考えている訳ではない。出席している人には必ず案内、議事録を送っている。

(3) 体験調査について

障害者の方は視覚・肢体両方か？健常者も車いす、アイマスクなどを体験してはどうか？
参加者が少ないのでこれでは調査にならないのでは？

- ・ それぞれの住区などで呼びかける必要がある。20 人程度は目安と考えている。
年中通っている道を歩いても意味がないのでは？危ない場所はすぐに指摘できる。わからない人だけ体験すればいいのでは。
高齢の方と一緒に歩き体験しないとわからないのではないかな？
平日は仕事のある人が参加できないのでは？
土日の方が歩行者・自転車が減ることは加味しておく必要がある。
- ・ 5月 土曜日 日程は事務局で決める。
様々な年齢層から参加してもらった方が良い。大人だけでなく子どもも。
- ・ これまで懇談会参加者へは案内を送る応募用紙などを同封する。
当日車いすは用意してもらえるのか？
- ・ 数台は区で用意する。
人数が多い場合はどうするのか？
- ・ 時間をずらすなど臨機応変に対応する。
構想づくりのバックデータとするならば特定経路の全路線を入れるべきでは（菅刈公園、共済病院）。

4. 今後の予定について

- ・ 5/20 号の区報で構想案を公表予定。同時期の懇談会にて説明する。
- ・ 5月に体験調査を実施する。
- ・ H15 年度は 1,2 回の開催を予定。12 月頃を目標に基本構想をまとめ、1,2 月に公表を予定している。

5. 閉会挨拶（省略）

以上